

Costume and Textile

No. 39

服飾文化学会会報

2020年3月

2020（令和2）年度 第21回服飾文化学会 大会のお知らせ

2020（令和2）年度 服飾文化学会 第21回大会を下記の通り開催いたします。多くの皆様がご参加くださいますようご案内申し上げます。

記

開催日 2020年5月16日（土）・17日（日）
開催校 和洋女子大学
〒272-8533 千葉県市川市国府台2-3-1
【研究発表】 西館1-4教室
【作品展示】 西館1-3教室
【自由見学】 和洋女子大学文化資料館
(東館17階)

1. プログラム

5月16日（土）
13：00～14：05 研究発表
14：15～15：45 特別講演
演題「皇室の儀式と親王殿下の御服」
講師 仙石宗久氏
15：55～16：25 総会
16：40～18：00 情報交換会（南館1階）
5月17日（日）
9：10～12：10 研究発表
作品・ポスター展示ショートスピーチ
12：10～13：10 昼食
13：10～14：40 作品・ポスター展示説明・質疑応答
(西1-3教室)

※作品・ポスター展示期間は、5/16（土）13：00～5/17（日）14：40です。また、ショートスピーチは、研究発表会場で行います。

※和洋女子大学文化資料館は、16日（土）のみ10時から16時30分に開館いたします。

※発表件数によっては時間変更が生じますので、後日

送付しますプログラムのご確認をお願いいたします。

2. 参加費

| | | |
|-----------|-------|--------|
| 大会参加費 | 会員 | 3,000円 |
| | 非会員 | 4,000円 |
| | 学生会員 | 1,000円 |
| | 学生非会員 | 1,500円 |
| 情報交換費 | 会員 | 4,000円 |
| | 非会員 | 4,500円 |
| | 学生会員 | 2,000円 |
| | 学生非会員 | 2,500円 |
| 昼食代（5/16） | | 1,000円 |

3. 発表・参加申込

(1) 発表申込締切日 2020年3月28日（土）

①既にお送りしました「発表者へのお知らせ」（2種）に沿って、第21回大会・総会実行委員（伊藤瑞香）までEメールにてお申込みください。（3/28必着）

②発表形式には、口頭発表・ポスター展示・作品展示の3種があります。

③発表は未発表の研究報告で、共同発表者とともに本会会員に限られます。非会員の発表希望者は学会ホームページから入会手続きをお願いいたします。

(2) 要旨原稿締切日 2020年4月18日（土）

(提出先)：m-ito@wayo.ac.jp

①用紙：A4 縦置き、横書き、1枚

②余白：上25mm、下30mm、左右30mm

③文字：10.5ポイント、明朝体

(3) 参加申込・払込締切日 2020年4月18日（土）

ゆうちょ銀行 振込口座 00220-8-107113

加入者名：伊藤 瑞香（イトウミズカ）

4. 特別講演

◆講師 仙石宗久氏

NPO法人 有職文化研究所 主宰
(社) 日本エチケット プロトコール協会 主宰
学校法人 国際文化学園講師

◆演題「皇室の儀式と親王殿下の御服」

◆講演内容

令和元年十月二十二日の「即位礼正殿の儀」では、秋篠宮皇嗣殿下は「東帯黄丹袍」を召されましたが、平成二年十一月十二日の即位礼正殿の儀では、昭和六十年十一月三十日の「加冠の儀」以来の成年皇族殿下の色目となる「東帯黒色雲鶴文袍」で儀式に臨まれました。「黄丹色」は「大宝令」の皇太子の「衣」の色に由来し「黒色」は親王の「衣」の「黒紫」に由来します。秋篠宮皇嗣殿下は、初め礼宮文仁親王と申しご結婚後は秋篠宮文仁親王となり、今 秋篠宮皇嗣文仁親王となられました。令和二年四月十九日の「立皇嗣宣明の儀」は皇室史上初めての儀式となります。

この折に親王殿下お召しの東帯皆具をご披露しお話しします

◆講師のプロフィール

仙石宗久氏

- 1990年 天皇陛下・皇太子殿下に、御即位礼・大嘗祭の一連の行事を通じ衣紋奉仕
- 1991年 天皇陛下・皇太子殿下に、立太子礼の一連の行事を通じ衣紋奉仕
- 2001年 スウェーデン皇太子殿下、着装披露・解説講演
- 2006年 ヨルダン国ハッサン王子殿下、着装披露・解説講演
- 2014年 典子女王殿下、御結婚に衣紋奉仕
- 2016年 フィンランド大統領夫人、着装披露・解説講演
- 2018年 絢子女王殿下、御結婚に衣紋奉仕
著書に『十二単のはなし』『生活の美学』『エチケットプロトコール 全3巻』ほか

5. 自由見学

◆和洋女子大学 文化資料館（東館17階）

◆展示テーマ「綾羅錦繡 ～和洋学園の裁縫教育の軌跡とその作品～」

和洋女子大学文化資料館は、平成4（1992）年に開館しました。当館のコレクションは、考古、服飾、工芸などの多分野にわたり、また、明治30（1897）年の創立以来、和洋学園の120年以上の歴史のなかで蓄積

されてきた裁縫教育に関わる資料も多数収蔵しています。

本展示では、ひな形などの裁縫教育に関わる資料や本学の教育に尽力された先生方の作品、館蔵の服飾資料などをご紹介します。

6. アクセス

【市川駅】（JR総武線）

<北口バスのりば1番より>

「松11系統」松戸車庫行きで約8分

「真間山下（ままさんした）」下車徒歩5分

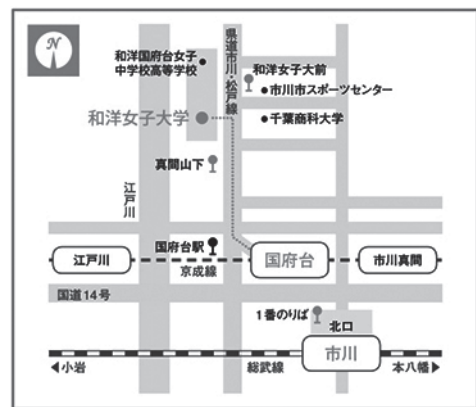
【松戸駅】（JR常磐線）

<西口バスのりば3番より>

「松11系統」市川駅行きで「和洋女子大学前」下車すぐ

【国府台駅】（京成電鉄）

北へ徒歩約10分



7. 連絡先

服飾文化学会 第21回大会・総会実行委員会
〒272-8533 千葉県市川市国府台2-3-1

和洋女子大学 平面構成学研究室 伊藤瑞香
m-ito@wayo.ac.jp TEL 047-371-1975

2020年度 総会のお知らせ

第21回大会において、総会を開催いたします。本学会の発展のために、多数の会員の総会への参加をお願いいたします。正会員の方は、5月1日までに出欠記載の返信はがきを事務局へ返送してください。

日時：2020年5月16日（土）15：55～16：25

会場：和洋女子大学 西館1-4

議事：(予定)

- ・令和元年度 事業報告 決算報告、監査報告
- ・令和2年度 事業計画審議、予算案審議

“服飾文化学会20周年記念公開シンポジウム” 報告

テーマ「服飾文化学会20周年記念公開シンポジウム
—服飾文化研究の現在と未来—」
日 時：令和元（2019）年11月9日（土）13:00～17:00
会 場：文化学園大学（D70番教室）

天皇陛下御即位祝賀式典「国民祭典」の記念すべき日に53名の参加者を以て記念公開シンポジウムが開かれた。本学会は“21世紀にむけ「衣」に対する新しい認識をもつ学会”を目指して平成12（2000）年1月29日に設立され、20周年を迎えた。これを祝してシンポジウムが開催された。

プログラム

- 13：00～13：30 受付（事前に文化学園服飾博物館「能装束と歌舞伎衣裳」展を自由に見学）
- 13：30～13：35 開会の辞：長崎巖会長
- 13：35～13：50 服飾文化学会の歩み：福田博美（文化学園大学）
- 13：50～14：20 基調講演：会長長崎巖（共立女子大学）
テーマ「服飾研究の多様な手法」
- 14：20～14：30 休憩
- ＜第1部＞各研究領域より語る「服飾文化研究の現在と未来」
- 14：30～14：50 服飾史領域：内村理奈（日本女子大学）
- 14：50～15：10 ファッションビジネス領域：大川知子（実践女子大学）
- 15：10～15：30 博物館領域：菅野ももこ（女子美術大学美術館）
- 15：30～15：50 構成学領域：大網美代子（大妻女子大学）
- 15：50～16：00 休憩（質問用紙回収）
- ＜第2部＞ディスカッション「服飾文化研究の現在と未来」
- 16：00～16：50 パネリスト：会長・第1部講演者
司会：菅野ももこ
- 16：50～17：00 閉会の辞：福田博美副会長
- 17：00～18：00 懇親会（Bun Café）

シンポジウム冊子

開催を記念して発行した冊子では、歴代会長より

「服飾文化学会20周年記念に寄せて」と題して寿ぎを頂戴した。初代から第2期（2000-2003）の会長を務められた石山彰先生は2011（平成23）年にご逝去された。書物を愛され、西洋服飾史の書誌に通じたご業績、本学会の礎を築かれた先生に畏敬の念を表す次第である。第3期（2004・2005）の石井とめ子先生は、元日本服飾学会の関東支部が独立した本学会のスタート、約150名の会員の活気に満ちた第1回総会・大会の様子を記し、広範囲に順応する服飾研究の諸相が述べられた。巻末では『世界人名辞典』に「服飾」が認知された点を称賛された。第4・5期（2006-2009）の伊藤紀之先生は本学会誕生の状況を詳細に記された。また、学会の両輪となる「学会誌」に論文編と作品編が加わった時代を語られた。第6期（2010・2011）の徳井淑子先生は資料のデジタル化とその公開によって調査が容易になった社会環境の変化を指摘された。第7期（2012・2013）岡田宣世先生は、地球環境の変化を鑑み、服飾文化研究の幅広い可能性を示唆し、科学分野との横断的研究は本学会が掲げる“歴史的認識を踏まえる”ことに始まるとまとめられた。「服飾文化」の多岐にわたる領域と博物館との不可欠な関りを提示された第8・9期（2014-2017）能澤慧子先生は、学会は出会い・交流の場にとどまらず、他分野の研究者同士において熱い接触と激しい化学反応の場となり、それを支えるボランティア精神を以て継承されるよう祈念された。最後に、第10期（現）会長の長崎巖先生は、学会の果たす役割と研究成果の社会への還元、次世代への研究の道標を述べられた。

尚、この記念行事は第20回研究例会に代えて実施されたもので、三友晶子理事（東京家政大学博物館）が冊子の編集を担当した。

開会の辞：長崎巖会長

人生に例えて、二十歳の成人式を迎えた本学会は、若い会員も増え、これから一歩一歩堅実な道のりを辿り、発展していくことでしょう、と祝辞を述べられた。

服飾文化学会の歩み：福田博美（文化学園大学）

学会活動は近年定着化し、5月に大会・総会、8月に夏期セミナー、10～11月の研究例会、2～3月に論文発表会が行われ、年1回の学会誌、9月・3月に会報が発行される。冊子最終頁に学会の基軸となる「大会」を

「特別講演」と共に辿った歴史をまとめた。お名前を存じあげてもお話をお聞きできる機会は限られ、そうした中で拝聴できる「特別講演」は学会員の至福である。新しい研究分野の開拓、異文化交流、等々、研究の多様性を実感できる。また、大会の研究発表では活発な質疑応答が進められ、作品展示発表も充実している。

次に、「服飾文化学会誌」では件数の推移を辿った。作品編は2008年に論文編から分化し、独自の編集が進められ、作品発表を研究手法とする研究者の発表の場となった。2018年度、同誌は「服飾学研究」と名称を変えた。

また、「論文発表会」は各大学から選ばれた学生たちの卒業論文・修士論文の発表の場で、未来を担う若い研究者の成果発表であることは大変意義深い。

さらに、多様な研究領域を顕著にあらわす「研究例会」は学会員の研究成果の場であるとともに、相互の親睦を目的とする。大学のみならず、博物館・美術館との研究が広まり、研究例会の特徴が表れている。

最後に「夏期セミナー」は、各地の行事に参加し、伝統染織に触れ、地元の料理を堪能し、寝食を共にして、学会員の交流を深める貴重な行事である。今年度は、はじめて海外…パリを基点にノルマンディー地方にてセミナーが開催され、クリスチャン・ディオール美術館見学等、20周年にふさわしい大変充実したセミナーとなった。冊子の巻頭を飾る長崎先生の写真はセミナーでの一枚である。

「服飾文化学会の歩み」から、年齢の別なく前向きで「若い力」「活力」を感じる本学会の特長が窺われるが、これは、自由で伸びやかな環境によるものであろう。

基調講演：会長 長崎巖（共立女子大学）

テーマ「服飾研究の多様な手法—あの手この手—」

近世・近代の服飾研究において「染織品」「服飾品」の特徴を捉え、事例を挙げながら研究手法を紹介された。

まず、「染織品」と鑑賞美術品、その他の工芸品と比較して問題点を挙げた。

- (1) 現存品が少ない。
- (2) 制作者・制作時期を明記しない。
- (3) (2) によって長い期間使用できる。

「染織品」「服飾品」の歴史的研究のために、周辺隣接研究領域の研究成果を活用する。

事例1. 「服飾史」・「絵画史」

絵画史の研究成果を活用する。絵画と現存する染織品・服飾品を照合して服飾品の制作年代を確認する。

「絵空事」の問題点に注意して活用したい。

事例2. 「書誌学」領域

「小袖雛形本」の図案と現存品との密接な関係性を見出す。「小袖雛形本」の制作年代から小袖の制作年代が判明できる。

一方、小袖の編年的研究が絵画史研究に活かされた。写楽の役者絵の例を挙げて、「小袖」「小袖雛形本」「浮世絵」の関係に注目した。絵画化する時にフィルターをかける、その方程式がわかる。

事例3. 他の工芸領域との連携

複数の工芸分野に誇る意匠の研究を行う。辻が花と織部との関係で、伊万里焼は中国の絵本を手本とする。

最後に、研究結果を検証して、研究手法の精度を高め、お互いに活用できるように公開したい。

各研究領域より語る「服飾文化研究の現在と未来」

ここでは、①自身の研究テーマ②分野の系譜③分野の今日的テーマや課題④分野の展望に基づいて発表された。ここでは、主に②・③・④について記す。

服飾史領域:内村理奈（日本女子大学）

フランス服飾史の研究手法は、日本における服飾美学の影響やフランス社会史の研究手法の流れを汲んでいる。西洋服飾史の研究は1830年代のロマン主義が発端である。

服飾史の分野は、美術史や文学研究の領域から関心が寄せられている。服飾史の知見が、これらの領域に新たな視点を提供できるからである。

また、文献史料や図像史料に加えて国内外の美術館等の実物史料も検討対象とするのが今後の課題である。

ファッションビジネス領域:大川知子（実践女子大学）

ファッションビジネスは経済学・経営学、繊維・流通・アパレル産業、社会学、家政学の領域から成り、「取引」や「消費」が発生するところ全てが研究対象になり得る。

ファッションビジネスは「人のビジネス」であり、常に現場で現状を把握し、現実主義であることが必要である。

現状も踏まえた上で、今後のこの領域の課題は、①人的資源を含む、点在する領域の体系化の必要性、②

常に更新される市場環境への学術的対応の二点である
と考える。

博物館領域:菅野ももこ (女子美術大学美術館)

近年、生活空間に存在する「服」を鑑賞する展示から「服」単体を鑑賞する展示に変化。これは実生活における私たちの服に対する感情の変化が反映されているのではないかと感じられる。生活空間を意識した展示は服をどのような空間で着用されたのか、各時代の様式、雰囲気を感じながら鑑賞ができる。しかし、一方で、日本の博物館・美術館では会場の問題があるので難しい。服を取り巻く環境が変化していく中で、歴史服の展覧会のテーマや手法も多様化するの自然であり、まだ見ぬ展示方法やテーマについて模索していきたい。

構成学領域:大網美代子 (大妻女子大学)

「構成学」領域は、「人体」「衣服」「パターン」「素材・デザイン」「縫製」が関連する複合的なものである。また、「服装史」「心理学」「社会学」などの領域とも関連が深い。

健康で快適な衣生活への問いは、どの時代も変わることのない本質的な課題である。

今後は複数分野の協同による研究や情報共有のための研究会などを進め、多面的な視野を持ち研究を進めたい。また、情報化とAIの進歩する中で、改めて手仕事の意味について、問い直しをしてみたい。

ディスカッション「服飾文化研究の現在と未来」

パネリスト:会長・第1部講演者、司会:菅野ももこ

会場からの質問にお答えし、

・「何のために研究を続けているのか?」「モチベーションの保ち方は何か?」

長崎:「好奇心」に尽きる。結果的に世の中のためになる。

内村:幼少から「服」が好きで、可愛いものやドレスが大好きでそれが続いている。作ることへの興味から、絵画や文学作品を読み解く面白さに惹かれていった。根底にあり続ける「可愛い」ものや美しいものへの深い関心が原動力になっている。

大川:資料調査では、壁にぶつかっても、わらしべ長者のように、ご紹介いただいた先の糸を紡いで続けている。その時代を生きた人々の情景が蘇る時の感動が、原動力である。

大網:ものへの興味、関心。幼少から作ることが好きで今でも続いている。作品づくりは生涯現役でありたい。教育の場で、ものづくりの楽しさや難しさを伝えたいという思いが原動力。

・「服飾文化の発展に向けての取組は?」

長崎:大学の教育として、若い研究者を育てる。はじめに興味を持たせ、基本的な論理を身につけて、楽しく学び、その先に「学会」へ。

博物館で服飾品・染織品を扱うための専門的教育が日本では不十分ではないか。博物館実習で



ディスカッションの様子

の専門的教育を以て学芸員へ就職。

大川：家政・生活科学の中で、ファッションビジネスの存在価値を高めるには、特に、教育現場での基本的なビジネスマナーも含めて、実際の商いとはどういうものか、その面白さを体験し感じ取って貰う。

・先生方同士の質問

ヨーロッパとアメリカのファッションビジネスの歴史から1970年代、テキスタイル業界の不況下で、ファッションがわかるビジネス教育が形成。(マネジメント教育と技術教育)

・長崎先生への質問

「日本の衣装の最も古いものは？」

長崎：正倉院宝物。奈良時代の伎楽の袍の類。

「服飾から絵画へフィルターがかかるとは？美意識と言え換えられるか？」

長崎：描く側がどこを重視しているか。絵師によって関心が違う。

・菅野先生への質問

「キュレーターによつての展示の仕方は？」

菅野：衣装の着装については、18世紀の服と20世紀の服とで、それぞれ異なる難しさがある。展示方法は各館、各キュレーターによつて異なるが、作品の保全を意識しながら魅力的な展示を心がけるといふ基本的なルールは同じである。

巡回展では、担当キュレーターが変わり、空間も変わるので、同じテーマであってもその雰囲気は異なる。

皆様のお力によって未来を見据えた服飾文化学会の記念行事となりました。深謝申し上げますとともに、今後の学会活動の発展を祈念いたします。

(研究例会担当 福田博美)

***** 夏期セミナーのお知らせ *****

毎年夏に開催している夏期セミナーですが、今年の7～8月は東京オリンピック開催の影響で、都内だけでなく国内全体で観光客の増加が予想され、地方でもホテル不足や交通機関の乱れ等が懸念されます。

この状況から、令和2年度第21回夏期セミナーは、年度末(2021年2～3月頃)に沖縄にて開催いたします。沖縄では紅型や芭蕉布等の染織品の見学・セミナー・ワークショップ等を企画する予定です。

なお、参加募集方法と申込日時、具体的な旅程につ

いては、各大学の行事日程が確定し、また新理事が決定した4月以降に決定いたします。

開催時期(予定)：令和3(2021)年2月または3月
開催地(予定)：沖縄県那覇市、浦添市、大宜味村、今帰仁村周辺

期間：2泊3日

主な見学地：沖縄県立博物館・美術館、古琉球紅型浦添型(蒟蒻型)研究所、今帰仁歴史文化センター、大宜味村立芭蕉布会館、等

募集人数：25～30名程度

***** 論文発表会の中止 *****

2020年2月28日に開催を計画していた「2019年度服飾文化学会論文発表会」(於文化学園大学)は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止しました。

***** 事務局より *****

●新入会員(敬称略 申し込み順)

正会員

中澤 聡美(和洋女子大学)

●退会者

福田 福子(女子美術大学)

加藤 紘子

大石あかね(文化学園大学)

◇◇◇◇◇◇◇◇ 展覧会のお知らせ ◇◇◇◇◇◇◇◇

■「ヨーロピアン・モード」

会場：文化学園服飾博物館

会期：2020年3月16日(月)～5月20日(水)

※新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、状況により会期が変更になる可能性があります。

■「きもの KIMONO」

会場：東京国立博物館

会期：2020年4月14日(火)～6月7日(日)

■「流行と社会 ファッションインジャパン」

会場：国立新美術館

会期：2020年6月3日(水)～8月24日(月)

会報 No.39：2020(令和2)年3月31日発行

編集発行人：服飾文化学会

事務局：101-8437 東京都千代田区一橋2-2-1

共立女子大学 被服平面造形研究室

TEL：03-3237-2463

E-mail：fukubunjim@gmail.com

URL：http://www.fukusyoku-bunka-gakkai.jp